

(2) 様式第9号 (報告書)

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業報告書

プログラム名	「教科化対応ラボによる教員の資質向上 ～ 英語ラボ、道徳ラボ研修会を通して指導と評価の一体化 ～」
プログラムの特徴	<p>2019年度の中学校道徳科の全面実施、2020年度の小学校外国語科（英語）スタートへの対応が求められている。本プログラムの教科化対応ラボ研修会を通じて、具体的な各学校や教員の取組について、不安や悩みの軽減を図るとともに、各教員の資質向上につながる研修内容を行政と連携して提供していく。</p> <p>また、平成28、29年度の「かがわ道徳ラボ」から平成30年度の「四国道徳ラボ」として取り組んできたことを、英語ラボにも発展させるとともに、道徳教育に関する学びのネットワークの更なる拡充につながるように互いの県を中心として活躍している先生方の関係づくりも意識して、情報交換の時間設定等に取り組んできた。</p> <p>そして、本事業は、香川大学教職大学院、香川県教育委員会、香川県教育センターの連携・協働のもとに実施してきたが、前述のような拡充を効果的にするために四国内の道徳教育に関する研究団体や学会の四国支部とも連携を図りながら、より広範囲に周知・啓発して、協力を得てきた。</p> <p>さらに、各教員・大学・附属学校・行政等、些細な疑問点でも互いに何でも聞きあえるネットワークづくりの構築にも寄与したいと考える。</p> <p>本年度の事業成果物として、英語ラボでは、小冊子「小学校英語評価資料集」を作成し、道徳ラボでは小冊子「道徳ラボー校内研修の充実ー」を作成し配布する。</p>

令和2年 3月

機関名
香川大学教職大学院

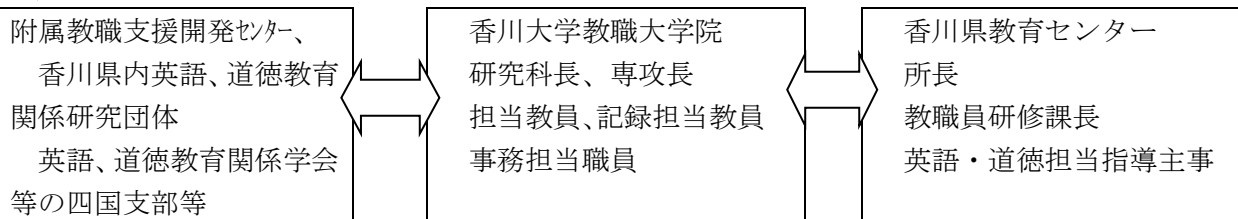
連携先
香川県教育センター

プログラムの全体概要



本事業は、香川大学教職大学院、香川県教育センターの連携・協働のもとに実施してきたが、四国内の英語教育や道徳教育に関する研究団体や学会の四国支部とも連携しながら、より広範囲に周知・啓発して、協力を得てきた。

連携



1 開発の目的・方法・組織

① 開発の目的

2019年度の中学校道徳科の全面実施、2020年度の小学校外国語科（英語）スタートへの対応が求められている。本プログラムの教科化対応ラボ研修会を通じて、具体的な各学校や教員の取組について、不安や悩みの軽減を図るとともに、各教員の資質向上につながる研修内容を行政と連携して提供していく。その際に、小学校英語では評価が大きな悩みや不安として、どのように取り組むか、どのように指導の改善に生かすのか、課題として推察される。また、道徳ラボにおいては、これまでの取組を校内により広めるために校内研修を企画する資質能力を育む内容に視点をあてて研修を実施する。さらに、各教員・大学・附属学校・行政等、互いの何でも聞きあえるネットワークづくりの構築にも寄与したいと考える。

② 開発の方法

教職大学院の道徳教育担当に関わる教員と県教育センターの英語、道徳教育担当指導主事が、互いの研修や講義等の現状と課題を情報交換したり、研修の内容と方法を繰り返し打ち合わせしたりすることが何より重要であった。具体的には、研修プログラムとして、以下のア～エの4点に取り組んだ。

ア 小学校英語科における指導と評価に視点をあてた研修会の実施

- ・土曜日の午後を活用して英語ラボ研修会：9月、2月の土曜日に実施
- ・参加者の悩みや困り感に応える内容やニーズに応えられるように配慮した。研修内容について、具体的な演習や基礎的な事項の理解、実践的に重要な視点についても共通理解を図りながら展開してきた。

イ 特別の教科道徳の校内研修の充実を図る内容に視点をあてた研修会の実施

- ・土曜日の午後を活用して道徳ラボ研修会：6月、9月、12月の土曜日に実施
- ・昨年度までの参加者のアンケートを基にそのニーズに応えられるように校内研修で如何に理解を広げられるか、特に道徳教育推進教師を支援することに配慮した。研修内容について、具体的な演習や何でも相談の時間を工夫するなどして展開してきた。

ウ 教員の指導力向上を図る個人研修や校内研修に活用できる各教材の作成・配布

また、本研修プログラムに参加できなくても、校内研修や個人研修等で活用できる内容を教材にまとめて、各学校等へ提供する。

英語ラボ成果教材：小冊子「小学校英語評価資料集」

道徳ラボ成果教材：小冊子「道徳ラボー校内研修の充実ー」

エ 相談や質問への対応と支援～道徳教育何でも相談ネット～

教科化に伴う学校現場や教員個人の不安や悩み等に答えるために、電話やメール、FAX、来訪等による対応を行う「道徳教育何でも相談ネット」を実施してきた。県内外から、道徳教育の教科化や学校での道徳の授業づくり等に関する相談や質問等が寄せられる。方法として、電話、大学への直接訪問、電子メールでのやりとり、個別質問時間の活用、道徳に関する研修会の休憩や終了後、等多様である。

○ プログラム開発・普及のための具体的施策として、下記委員会と研修会を実施した。

4月 実務担当者連絡会：実施計画と基本的なプロジェクト内容、役割分担、案内状について

5月 運営委員会：実施計画と基本的なプロジェクト内容について

6月 道徳ラボ①「資質能力の向上をめざして～校内研修の充実①～」

9月 英語ラボ①「資質能力の向上をめざして～英語科の指導と評価の一体化①～」

9月 道徳ラボ②「資質能力の向上をめざして～校内研修の充実②～」

11月 中間報告会：プロジェクトの進捗状況、作成教材について

12月 道徳ラボ③「資質能力の向上をめざして～校内研修の充実③～」

2月 英語ラボ②「資質能力の向上をめざして～英語科の指導と評価の一体化②～」

2月 運営委員会、評価委員会：プロジェクトの評価について

③ ア 開発組織体制

No	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
1	香川大学教職大学院 教授	野崎 武司	研究科長	9月末まで
2	教授	武藏 博文	統括（専攻長）	
3	教授	齋藤 嘉則	英語ラボ総括・（道徳ラボ）	
4	准教授	中住 幸治	英語ラボ企画・立案・実施	
5	教授	植田 和也	事務局、道徳ラボ総括・（英語ラボ）	
6	教授	山本木ノ実	道徳ラボ企画・立案・実施	
7	准教授	金綱 知征	道徳ラボ企画・立案・実施	
8	准教授	大熊 裕樹	道徳ラボ企画・立案・実施	
	特命教授	津山 勝義	道徳ラボ実施協力	
9				
10	教育学部事務課長補佐	中島 直子	関係機関との連絡・調整	
11	学務係専門職員	入江 一之	会計	
	学務係	松井 梨奈	事務的文書発送	
12				
13	香川県教育センター 所長	真鍋 佳樹	事業全体の企画・評価	
14	教職員研修課長	齋藤 浩	連携協議・評価	
15	主任指導主事	浅野 正敏	道徳ラボ企画・立案・実施	
16	指導主事	芳我 清加	道徳ラボ企画・立案・実施	
	指導主事	清水 由美	英語ラボ企画・立案・実施	

イ 協議会や打ち合わせ等

3・4月においては県教育センターを訪問し、事前協議や打ち合わせを実施し、全体の計画と内容の調整を行った。その後、下記のように連携協議会や打ち合わせを組織委員としての香川大学教職大学院、香川県教育センターの担当者を中心に実施してきた。下記以外にも担当者間で詳細な準備の打ち合わせ等を、メール審議や電話でその都度実施してきた。その他、協力していただいた機関や団体とも随時、打合せや確認のための協議をしてきた。

【担当者協議会・打合せ会】平成31年3月27日、令和元年5月17日、8月23日、9月11日、12月21日
英語ラボ、道徳ラボの各担当者間で、上記の打ち合わせをもとに、研修プログラム連携協議会（組織委員：香川大学、香川県教育センター）を下記の通り開催した。

【第1回連携協議会 令和元年5月9日】プログラム全体の年間予定、運営面の役割分担
本協議会の組織体制及びプログラムの年間予定を確認し、運営面の役割分担について、評価と教材作成等の見通しについて協議した。また、前半の6～9月実施の具体的な研修についても確認した。作成予定の研修教材についても意見を交わした。

【第2回連携協議会 令和元年10月29日】活動の中間報告
9月までの実施状況について、教職員支援機構に提出した中間報告をもとに参加人数や内容に対する反応、今後の実施予定の研修会の案内状配付状況の確認と、研修プログラム全体の進捗状況や教材作成の予定について協議、確認した。

【第3回連携協議会・評価委員会 令和2年2月27日】今年度の活動報告と評価
研修プログラムの評価及び次年度以降について、学校現場の道徳教科化への対応や状況等を踏まえて検討した。また、3月に完成予定の研修教材の発送予定について報告した。（評価委員会について次頁参照）

*【香川県教委との連携協議会 令和2年2月13日】今年度の取組について報告

大学と県教委との連携協議会において、本年度の取組や成果教材の予定について報告した。

【9月3日 附属教職支援開発センターとの打合せ（英語ラボ）】・センターとの共催について

令和元年度「教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業」に係る評価委員会

*出席者：教職大学院 5名

(武藏専攻長、中住、植田、山本、金綱)

事務 1名 (入江)

県教育センター 4名

(真鍋所長、齋藤課長、芳我指導主事、清水指導主事)



1. 日時 令和2年2月27日(木) 14:40～
2. 場所 香川大学教育学部 第2会議室
3. 内容 (1) 開会挨拶 武藏専攻長
(2) 本年度の事業実施状況報告 資料に基づいて報告
英語ラボ・・・中住 道徳ラボ・・・植田
(3) 本年度の教材作成、報告書等について
英語・・・小学校英語指導と評価の一体化資料集
道徳・・・30分で挑戦！校内研修シート集
2020年3月中旬発刊予定で3月下旬発送を予定している
(4) 次年度の実施や今後の連携について
教職大学院と県教育センターとの連携を継続して
(5) 質疑応答
・次年度も何らかの形でラボが継続できるようにしたい。
・県センターも可能であれば日程を確認して有効に活用できればよい。
・英語の評価はタイムリーな内容であるとともに教材が楽しみだ。
・道徳は県外からも多く参加しているがリピータも多いのではないかと。
・次年度からの県センターとの連携研修にも道徳で取り組んでいきたい。
(6) 閉会挨拶



2 開発の実際とその成果

① 英語ラボ

○研修の背景やねらい ※ねらいについては、明確に記述)

2020年度の小学校外国語科（英語）スタートへの対応が求められている。そこで、本プログラムの教科化対応ラボ研修会を通じて、具体的な各学校や教員の取組について、不安や悩みの軽減を図るとともに、各教員の資質向上につながる研修内容を行政と連携して提供していく。

特に、英語ラボでは、小学校英語に関する評価が大きな悩みや不安として、話題となっているので、どのように取り組むか、どのように指導の改善に生かすのか、具体的に研修の場で取り上げて、各校の実践に生かすとともに、各教員の資質向上につながることを目的とする。

○研修対象者：小・中学校の教員（特に英語担当教師、英語科主任、ALT、管理職等）

○各研修内容で大切にしたい考え方

受講者に「観点別評価」「指導と評価の一体化」についてよりよく理解していただくことと、評価規準作りを実際に体験していただくことを今年度の統一した大きな目的とした。

いずれも繰り返し徹底すべき重要な事項であるため、2回とも共通のテーマによる講演と演習を設定したが、2回目については実践発表として現場教員からの実際の作成案も紹介した。

また9月は“We Can 1”，2月は“New Horizon Elementary 5”と異なる教材・教科書を活用しての演習活動を設定した。

○ 研修の実施内容（実施時期、対象人数、会場、日程、内容等）

研修名 日 時	講師、提案者等 (敬称略)	参加人数	会場	内 容	備考
英語ラボ 研修会Ⅰ R1.9.7 13:00-17:00	鈴木 渉 清水 由美 中住 幸治	55名	香川大学	講演『小学校英語指導と評価－観点別学習状況の評価の実際－』 演習『観点別学習状況の評価の実際』	
英語ラボ 研修会Ⅱ R2.2.8 13:00-17:00	鈴木 渉 伊瀬 吏沙 中住 幸治	40名	香川大学	講演『観点別学習状況の評価の進め方』 実践発表『観点別学習状況の評価の実践事例案提案』 演習『観点別学習状況の評価の実際』	

* 研修で用いた具体的な資料等の一部は、研修教材資料集にも掲載している。

○実施上の留意事項

英語ラボでは、小学校英語の「指導と評価」を中心に研修を実施し、特に教科化導入に際して不安が高いと推察される「評価」の在り方に重点を置いて展開した。

また、研修の成果と課題を実践資料から可能な限り確認しながら、それらを成果物として、小学校英語評価資料集としてまとめるとともに、できる限り配布して還元しようとした。

○研修の評価方法、評価結果

参加者によるアンケートを行うとともに、県教育センターの担当者と協議を重ねる中で内容の具体性や参加者のニーズとのバランスなどを研修会終了後にその都度、話し合っ確認してきた。

○研修実施上の課題

参加者のアンケート結果からも、おおむね英語の評価に対する具体的なポイントはつかめたようだが、このような内容をもっと多くの教員に理解してもらおうと実践が進めやすいと言う声もあり、如何に小学校英語担当以外の教員、中学校の教員にとっても参加しやすい日程や周知等の在り方も今後検討していきたい。

英語ラボ研修会 I 【アンケート結果】（回答者 38名）

開催：令和元年9月7日（土） 13:00～17:00

香川大学幸町北キャンパス研究交流棟5階 研究者交流スペース

1. 「英語ラボ」に参加した目的

- ・評価について具体的に作る演習ができてよかった
- ・「観点別学習状況の評価の実際」が知りたかったので。
- ・今後の外国語の授業に生かすため
- ・小学校英語の評価について学びたかったので
- ・小学校6年の担任となり英語を教えているがどのように進めていけばいいのか困っている
- ・20年度から新学習指導要領が実施されることを受け、評価に対する知識を探したいと感じたから
- ・実際に小学校の英語指導にたずさわっているし、講演の内容にも興味があったため
- ・校内の外国語科，外国語活動の充実，正しい力が身に付く指導方法を知るため。
- ・新学習指導要領が全面実施になってからの評価について知りたかったから。特に中学校教員であるため，小学校外国語についての知識が十分でないため。
- ・外国語主任として，教科化に向けて準備できるようにするため。
- ・来年度から教科化されるため，どのような授業を実施し，どのように評価を行っていけばよいかを知るため
- ・最新の情報を得るため（英語の評価について知りたい）
- ・自己研鑽のため
- ・学校で，4観点で組み立てられていた評価を3観点に組み直しています。その活動の中で，技能と思考・判断・表現の区別ができなかったり，文言が分からなかったりしたため

2-1 内容について

回答	件数
1. 参考になった	24
2. どちらかという参考になった	11
3. あまり参考にならなかった	2
4. 参考にならなかった	1
未回答	0
計	38

2-2 参考になった点

□講演『小学校英語指導と評価－観点別学習状況の評価の実際－』

- ・外国語の言語活動についての考え方におどろいた。実際に疑問を持ちつつ日々を過ごしていますが，あっている！！と安心しました。
- ・いろいろな英語活動の方法について。Small Talk（帯活動）についての具体的な指導方法について詳しく説明してもらったので，今後の授業で実践していきたい。
- ・評価について今まで分かっていなかった事柄を知ることができた。やりとりを中心に評価基準を作成してみて，難しさを感じるとともに，評価決定の大切さがわかりました。
- ・新学習指導要領での学習指導案の書き方の評価規準の書き方が今一步分からなかったもので，今日の講演を聞いてよく分かった。
- ・授業への取り寄せ方，評価視点について，やり取りについて，よくわかりました。

- ・小・中の学習指導要領比較ができたこと。Activity がよかった。
- ・評価の三観点，すごく複雑だが，知識と技能の違いが少し理解できた。

□演習『観点別学習状況の評価の実際』

- ・観点別評価の基準をつくる手順が分かった。
- ・「～について，～を聞いて，～を」を大切に，見ていきたいと思います。
- ・評価基準のつくり方、具体的な評価の方法を提示してもらったのがよかった。
- ・今まで全くこういった活動をしたことがなかったので大変勉強になった
- ・「簡単な語句や基本的な表現」とは，あいまいな表現で，意味が分かりづらかったが，子どもの主体的な学びとなるための意味が込められていることを初めて知った。この点を学校に持ち帰り，広めたい。
- ・今年先行実施ではあるが指導要録の形式もかわっていないため，評価も文章表記であるらしいし観点も変わっていないらしい。全面実施になると数値による評価になることや周知の時期などについて先に枠組みをお話しいただければ，より分かりやすかったと思います。3 観点の見本については非常にわかりやすかったです。
- ・評価の書き方、ワークショップで，具体的な文書について考えられたのがよかった。
- ・外国語科の指導案や評価の観点については初めて見たので，参考になりました。
- ・実際に自分で作成してみて，その後，ご説明いただいたことで，納得したこと（観点のとらえ方）

□総括

- ・最後の方のプレゼンで見せてもらった内容についても資料としていただきたい。
- ・小中高の接続についてもよく分かった。
- ・「言語活動」の捉え方が厳しくなったこと，中・高への接続に基づいた小学校英語だという関係性が明示されていた
- ・新学習指導要領についての評価の視点が理解できた。英単語数など，小一中連携を特に大切。
- ・最新の情報，国の動向等、質問に答えくださりありがとうございます。
- ・今日学んだことをもとに2学期は，評価のつけ方を変えてみようと思う。
- ・せっかく，先生がついてくださるなら，経験の度合で事前にグループを組むなどして初心者優先して支援してほしい。

(その他)

- ・「他者に配慮」する力が身に付くように，日々の指導場面で使う言葉は大変参考になったので，これも学校で広め，実践していきたい。
- ・最後のQ&Aはよかったです。

英語ラボ研修会Ⅱ【アンケート結果】（回答者 25名）

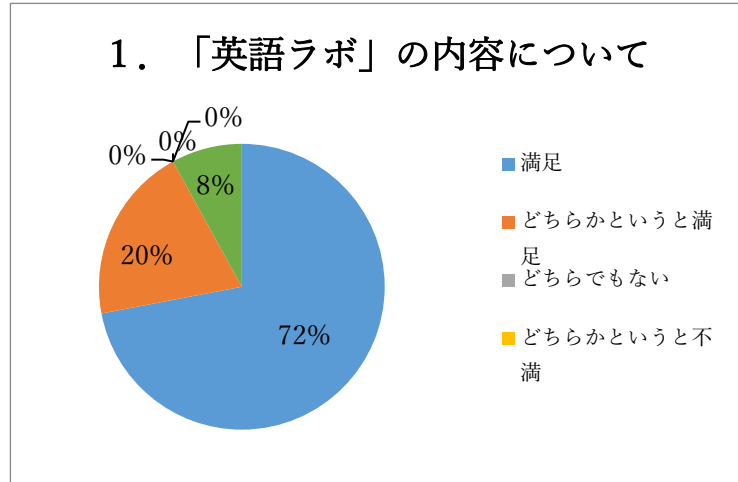
開催：令和2年2月8日（土） 13：30～16：45

香川大学幸町北キャンパス研究交流棟5階 研究者交流スペース

1. 「英語ラボ」の内容について

満足	18
どちらかという満足	5
どちらでもない	0
どちらかという不満	0
不満	0
無回答	2

(人)



《満足》

- ちょうど学校でも話題にのぼっていた内容だったので、ありがたかった。
- 一番聞きたかった評価についてのお話を伺うことができた。
- よくわかった。具体的に、授業の、活動のこういった場面でどうという具体があつてよかった。
- アカデミックな話が聞ける機会を有り難うございます。普段からアンテナを高くしておきたい。
- 評価について考える良い機会、実際にやってみながら、話し合いながら、考えることができた。
- 不安だった評価の実体験があり、助かった。評価について具体的に研修できました。
- 少人数で、教官を囲んでのひとときは、詳しいお話がきけてありがたかった。
- 小学校でどんなふうに授業や評価がなされていくのか、また、小学校の先生方の困り感も伝わり、しっかり連れいできるような勉強していきたい。

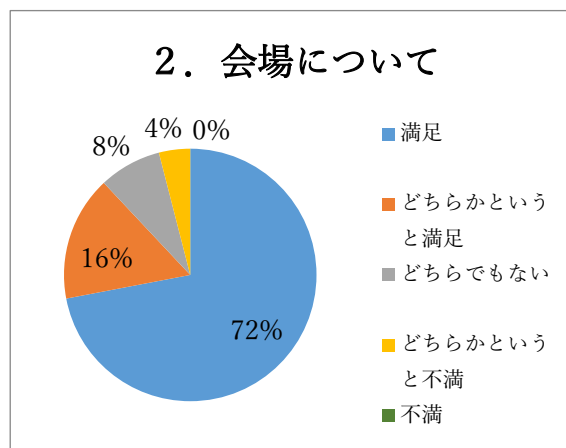
《どちらかという満足》

- 内容が充実しているから
- 現場での声をもとに、テーマが設定されていると感じます。

2. 会場について

満足	18
どちらかという満足	4
どちらでもない	2
どちらかという不満	1
不満	0

(人)



《満足》

- アクセスしやすい
- 広くて静かでした。食堂もあいていてたすかりました。
- 机に余裕があつて、ゆったり座れていい。いつも会場の設営準備ありがとうございます。

《どちらでもない》

- 便利はよいけれども、駐車場が・・・
- 教育学部も広いし、棟がたくさんあつて迷いました。地図があるとうれしかったです。

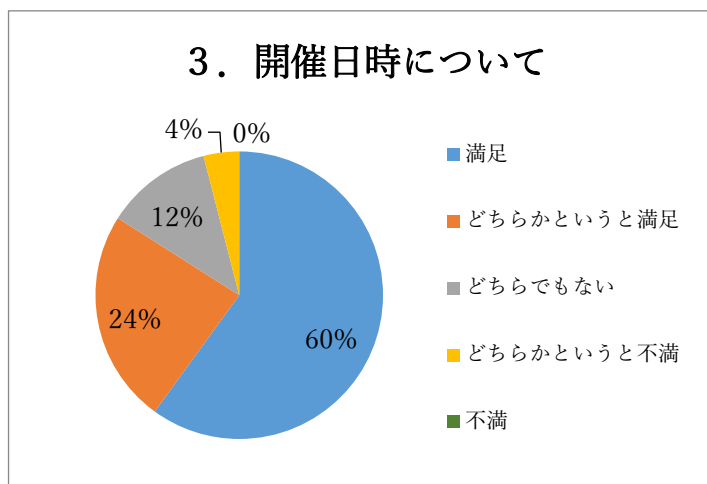
《どちらかという不満》

- とても迷った。文書に大学構内用地図をのせてほしい。
駐車場代がかかる。

3. 開催日時について

満足	15
どちらかという満足	6
どちらでもない	3
どちらかという不満	1
不満	0

(人)



《満足》

- 参加できる日時だったので、うれしかった。ちょうどよい時期に旬の内容であったと思います。
- 評価前なので、まだ、ゆとりがあるため。土曜日はわりと受講しやすいのでありがたいです。

《どちらかという満足》

- 来やすい時間になっている。(土)(日)

《どちらでもない》

- いそがしい時期で、行事が重なっていました。
- 2月は少し忙しいので長期休暇中などありがたい。(評価の話は話題としてタイミングがすごくよかったと思います。)
- 春、夏、冬の休業日であれば、もっと多くの参加者が集まるのではないのでしょうか。

《どちらかという不満》

- 土、日は出張扱いにならないから

4. 今後実施して欲しいテーマ

- ・ 学力を上げるための具体的なとりくみ成功例
- ・ プログラミング教育(理・算のどの単元で指導できるのか)指導例
- ・ 中学校英語の指導と評価、新しい教科書を用いた具体的な指導の仕方についての研修
- ・ 今回の講座のように、最新情報が聞けたらありがたいです。また、少人数のグループで、情報交換して、大学の先生から、アドバイスをいただけてよかったので、そういう、情報交換の場があったらいいと思いました。
- ・ 教科書が採択されたので、実際の研究授業や、評価の具体物なども紹介していただけると、ありがたい。評価の表し方も具体物を見ていきたい。(今後も)
- ・ 新しい評価の観点にそった、英語の筆記テストの作成の仕方について。(現在は、語いや文法を理解、ききとりと長文問題を理解、英作文を表現として評価している。)

英語ラボ研修会Ⅰ実施要項

『小学校英語指導と評価－観点別学習状況の評価の実際－Part1』

日 時：令和元年9月7日（土）13：00～16：45

場 所：香川大学幸町北キャンパス研究交流棟5階 研究者交流スペース

参加費：無料

対 象：教員・教育関係者・学生（大学院生，学部学生）

日 程：12：30～ 受付

13：00～13：10 開会挨拶

13：15～14：45 講演

演題『小学校英語指導と評価－観点別学習状況の評価の実際－』

講師：宮城教育大学教育学部 鈴木 渉 准教授

15：00～16：30 演習『観点別学習状況の評価の実際』

講師：宮城教育大学教育学部 鈴木 渉 准教授

香川県教育センター 清水 由美 指導主事

香川大学教育学部 中住 幸治 准教授

16：30～16：45 総括 宮城教育大学教育学部 鈴木 渉 准教授

16：45～ 閉会

英語ラボ研修会Ⅱ実施要項

『小学校英語指導と評価－観点別学習状況の評価の実際－Part2』

日 時：令和2年2月8日（土）13：00～16：45

場 所：香川大学幸町北キャンパス研究交流棟5階 研究者交流スペース

参加費：無料

対 象：教員・教育関係者・学生（大学院生，学部学生）

日 程：12：30～ 受付

13：00～13：10 開会行事

13：15～14：35 講演

演題『観点別学習状況の評価の進め方』

講師：宮城教育大学教育学部 鈴木 渉 准教授

14：50～15：30 実践発表『観点別学習状況の評価の実践事例案提案』

講師：観音寺市立大野原中学校 伊瀬 吏沙 教諭

香川大学教育学部 中住 幸治 准教授

15：30～16：20 演習『観点別学習状況の評価の実際』

指導助言：香川大学教育学部 中住 幸治 准教授

宮城教育大学教育学部 鈴木 渉 准教授

16：20～16：40 総括 宮城教育大学教育学部 鈴木 渉 准教授

16：40～16：45 閉会行事

英語ラボ I 2019年9月7日の様子



『小学校英語指導と評価』【講師による講演1】



『小学校英語指導と評価』【講師による講演2】



『観点別学習状況の評価の実際』【講師の指導助言による演習活動1, 2】



『観点別学習状況の評価の実際』【講師の指導助言による演習活動3】

英語ラボⅡ 2020年2月8日の様子



『観点別学習状況の評価の進め方』
【講師による講演1】



『観点別学習状況の評価の実践事例案提案』
【実践発表】



『観点別学習状況の評価の実際』

【講師の指導助言による演習】

②道徳ラボ

○研修の背景やねらい ※ねらいについては、明確に記述)

道徳ラボにおいては、これまでの取組を校内により広めるために校内研修を企画する資質能力を育む内容に視点をあてて研修を実施する。2019年度の中学校道徳科の全面実施への対応が求められている。本道徳ラボ研修会を通じて、具体的な各学校や教員の取組について、不安や悩みの軽減を図ることを目的とする。

○研修対象者

道徳ラボ研修対象者：小・中学校の教員（特に道徳教育推進教師、道徳主任、管理職等）

○各研修内容で大切にしたい考え方

前述のような背景やねらいをもとに、研修内容については、昨年度の反省や参加者の声に応えられるように強く意識した。そのうえで、今年度のポイントとして、校内研修に視点を絞った。

特に今年度は、授業づくりや特別支援学級での取組や支援ということで、参加者が抱く「研修での学びを授業に生かしたい」という実践につなげたいといったニーズに応えるために、自分の勤務校でもやってみたいと思える事例に焦点を当てて、6月には実践事例を9月には演習を12月には事例の演習的な方法での紹介等を通して、校内研修等で活用できるように内容を配置してきた。

○研修の実施内容（実施時期、対象人数、会場、日程、内容等）

前述の背景やねらいを受けて、下記の「道徳ラボ研修会」を3回実施した。

研修名 日時	講師、提案者等 (敬称略)	参加人数	会場	内 容	備考
道徳ラボ 研修会Ⅰ R1. 6. 15 13:00-17:00	吉原聖人 山本健太 植田和也 齋藤嘉則 坂井親治 西尾洋之	63人	香川大学	小・中学校における校内 研修の充実と実際の取組	
道徳ラボ 研修会Ⅱ R1. 9. 14 13:00-17:00	横山利弘 植田和也	87人	香川県 教育センター	校内研修を生かして道徳 科の授業改善 「研修と授業改善」	
道徳ラボ 研修会Ⅲ R1. 12. 21 13:00-17:00	七條正典、植田和也 山本木ノ実 原 洋子 小島啓明	111人	香川大学	特別支援学級での道徳科 の授業への理解 校内研修での実際	

○実施上の留意事項

道徳ラボでは、6月の参加者に校内研修に関するアンケート調査を行い、研修内容で生かされた点や実践に活用できる情報等を研修教材にまとめようとしてきた。また、情報発信の在り方について、今まで香川県以外からの参加者も毎年増加しているので、県外の機関や研究団体の協力も得ながら、より広く情報を発信するとともに、成果をより広く伝えていくように努めてきた。

○研修の評価方法、評価結果

参加者によるアンケートを行うとともに、県教育センターの担当者と協議を重ねる中で内容の具体性や参加者のニーズとのバランスなどを研修会終了後にその都度、話し合っ確認してきた。

○研修実施上の課題

参加者のアンケート結果からも、おおむね好評である。多様なアイデアや具体的なポイントはつかめたようだが、管理職や道徳教育推進教師以外の先生方の意識をどのように高めるかが重要な課題だ。そこで、研修教材をまとめるとともに、できる限り配布して還元しようとした。

道徳ラボ研修会 I 【実態把握に関するアンケート結果】

開催：令和元年6月15日（土） 13:00～17:00

香川大学教育学部 【参加者数63名】

() 県より参加

都道府県	件数
香川	47
岡山	3
徳島	1
愛媛	2
高知	9
愛知	1
計	63

左63名の内、協力してくださった方35名、加えて令和元年7月 広島県道徳教育研修会での協力してくださった方合計で61名の道徳教育の研修に関する結果

小学校22名 中学校38名 高等学校2名 全61名

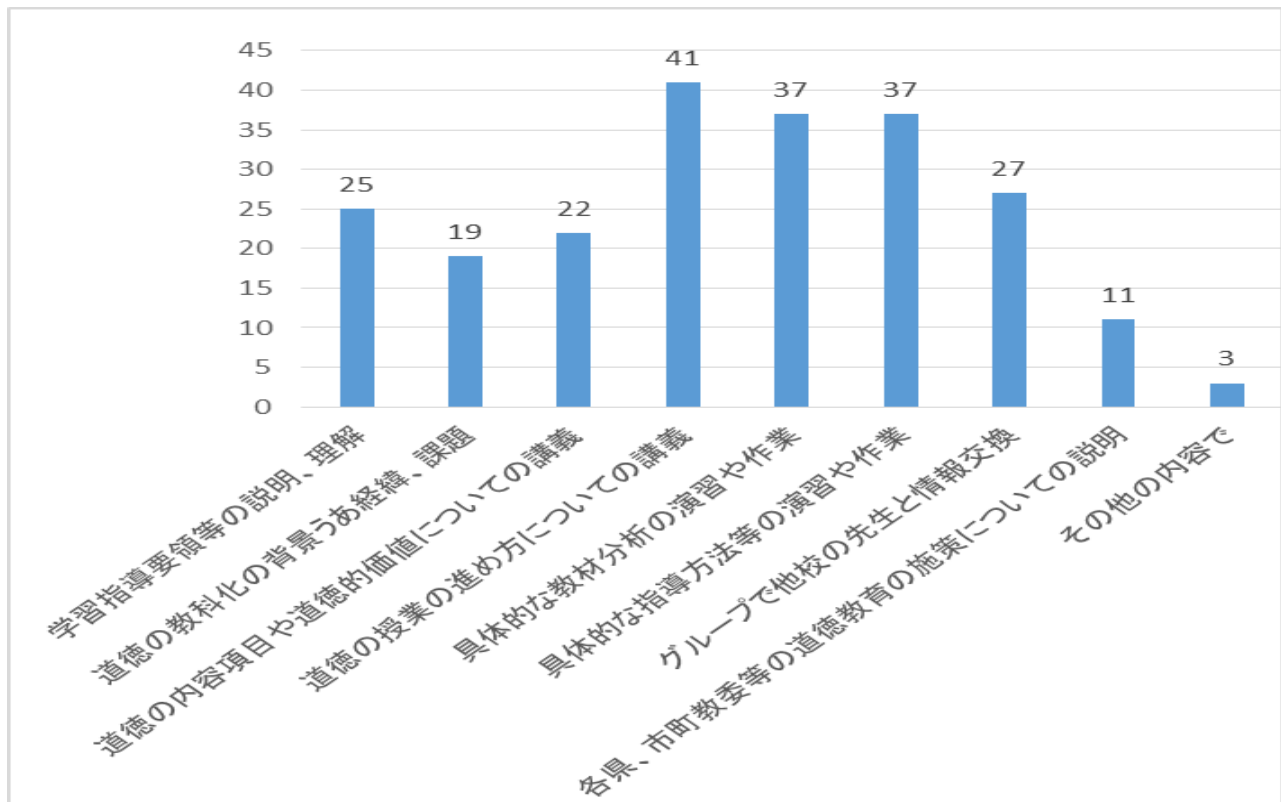
※1名小・中両方に勤務経験有

- 校内での道徳主任や道徳教育推進教師の経験の有無 ある 41名 ない 20名
- 今までに学校外での道徳教育に関する研修の有無 ある 59名 ない 2名

3-1 今までに何回くらいあるか（学校外での道徳教育に関する研修）

初任者研修のみ（1回のみ）	1
2～3回程度	26
5回以上	32

3-2 効果的と感じた研修（学校外での道徳教育に関する研修）

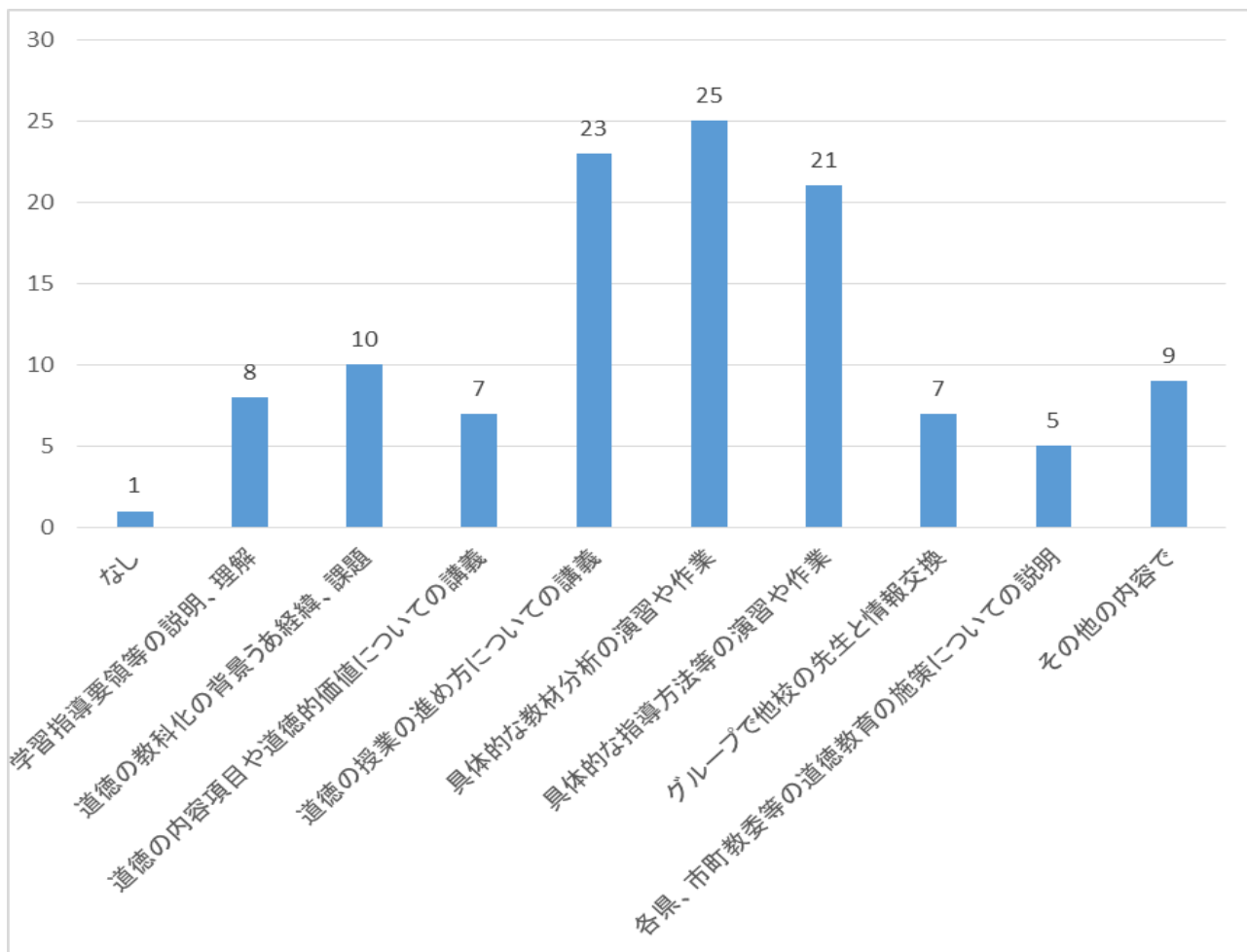


4. 昨年度校内で道徳に関する研修の有無 ある 48名 ない 7名

4-1 昨年度の校内全体での研修数

1回	21
2回	11
3回以上	15

4-2 昨年度の校内研修で効果的と感じた研修



上記の6月、7月のアンケートより、2回目以降の道徳ラボの内容や研修教材の演習用シートの作成内容を意識して行った。特に 道徳科の授業に関する教材分析や指導方法に関する点 を重視していくこととした。

加えて、学習指導要領の理解に関する内容があまり効果的と感じられていないことも校内研修の工夫ができるように教材作成において、解説の頁を示すように工夫することとした。

道徳ラボ研修会Ⅱ【アンケート結果】

開催：令和元年9月14日（土） 13：00～17：00

香川県教育センター5階大会議室【参加者数87名】回答66名

（ ） 県より参加

都道府県	件数
香川	53
岡山	3
徳島	14
愛媛	3
高知	11
東京、兵庫、広島	各1で3
計	87

1 平成28年度～前回の道徳ラボにも参加されましたか。	
回答	件数
平成28年度も参加した	14
平成29年度も参加した	28
平成30年度も参加した	42
前回（令和元年6月）も参加した	20
初めての参加である	17
未回答	0

2-1 本日の内容について	
回答	件数
参考になった	65
どちらかという参考になった	0
あまり参考にならなかった	0
参考にならなかった	0
未回答	1
計	66

2-2 参考になった点	
回答	件数
校内研修を生かして道徳科の授業改善	61
講演「授業と研修の改善」	63
その他	6
未回答	2

その他（参考になった点）

- ・有名資料について、（手書きの図）の図にあてはめて考えてみたい。
- ・動線の記録は初めて知りました。次回、座席表を用意してみようと思います。
- ・教材を読みこむことの大切さを教えていただきました。
- ・教材の読みこみ方や子どもへの声のかけ方等、教材の読み方を教えてくださったこと。
- ・横山先生のご講演から道徳教育の本質に対する理解が深まりました。
- ・学校現場にそった研修内容で、わかりやすくご説明いただき、たいへん満足度の高い研修でした。

3-1 昨年度の四国道徳ラボによる道徳研修教材について	
回答	件数
校内研修で活用した	7
個人的に視聴したり活用したりした	26
学校に届いていたかも知れないが、見ていない、活用していない、知らなかった	26
未回答	11

◎ ラボに参加した約半数の方は、校内や個人で昨年度のDVD研修教材を活用していた。

3-2 昨年度のDVD教材を活用した、視聴された方、使用しての感想やご意見は？	
回答	件数
具体的で分かりやすかった	25
研修等で使いやすかった	7
解説等の説明や参考頁がよかった	10
表現が難しかった	2

道徳ラボ研修会Ⅲ【アンケート結果】

開催：令和元年12月21日（土） 13:00～17:00

香川大学幸町北キャンパス研究交流棟5階 研究者交流スペース【参加者数111名】回答71名

都道府県	件数
香川	64
岡山	15
徳島	13
愛媛	7
高知	8
広島	3
東京	1
計	111

1 平成28年度～前回の道徳ラボにも、参加されましたか。	
回答	件数
平成28年度も参加した	14
平成29年度も参加した	22
平成30年度も参加した	28
前々回（令和元年6月）も参加した	18
前回（令和元年9月）も参加した	23
初めての参加である	32
未回答	0

2-1 本日の内容について	
回答	件数
参考になった	52
どちらかという参考になった	15
あまり参考にならなかった	0
参考にならなかった	0
未回答	4
計	71

2-2 参考になった点は	
回 答	件数
基調提案： 「道徳科に係る特別支援教育の基本的な確認」	50
報告1・2	66
ディスカッション	47
講話「道徳科の授業づくりで大切にしたいこと」	45
その他	6

その他（参考になった点）

- ・“基調提案：もっとゆっくり聴きたかった。時間が短かったですね。”
- ・講演：植田先生のお話とっても良かったです。”
- ・ディスカッションでの、七條先生の指導・助言によって、今回の提案や実践報告の要旨について理解が深まりました。取り組みの具体が分かり、とても参考になりました。アイデアを、また使わせていただきたいと思います。
- ・大変勉強になりました。ぜひ次回も参加できればと思います。
- ・クリティカルシンキングの話題の「子どもと子どもをつなぐ」という植田先生の話は、まさに特別支援教育の視点そのものだと思います。
- ・教具やアプリの紹介も、形を代えて本校へ取り入れられそうなものもあった

3-1 昨年度の四国道徳ラボによる道徳研修教材について	
回 答	件数
校内研修で活用した	2
個人的に視聴したり活用したりした	23
学校に届いていたかも知れないが、見ていない、活用していない、知らなかった	40
未回答	8

3-2 昨年度のDVD教材を活用した、視聴された方、使用しての感想やご意見は？	
回 答	件数
具体的で分かりやすかった	21
研修等で使いやすかった	2
解説等の説明や参考頁がよかった	10
その他 ・抜粋して職員研修で使いました。重要な場面はプリントスクリーンし、パワーポイントにはりつけて使った。資料集とかがあったらほしい。(データで) ・DVD教材具体例がよかったです。教具やアプリの紹介も、形を代えて本校へ取り入れられそうなものもあった。	2

その他：今まで道徳ラボに参加してのご意見や感想等

- ・“毎回大変勉強になり、楽しく参加しています。次回も楽しみにしています。”
- ・特別支援学級における道徳の授業、たいへん参考になりました。道徳はやり方によっては大変おもしろい授業だと思いますが、教科書を使わなくてはということになってから単に単元をこなすだけの単調な授業になっている現実があります。
- ・道徳は答が一つでは、ありません。なので日々生徒たちと楽しんでいます。教科書指導とは違い、学校種を超えて、同じ土俵で相互の思いを出し合え、明日への授業へ生かします。
- ・とても勉強になりました。今日、学んだことを3学期から活用していきます。本当にありがとうございました。
- ・初任者として参加させていただきました。内容は、ベテランの先生方向けのお話だと思いましたが、非常に勉強になりました。ありがとうございます。
- ・先進的な取り組みや、国の動きなどの情報提供もあり、とても充実した研修でした。お世話を毎回頂き、感謝しております。ありがとうございました。
- ・七條先生の適切なご指導で提案されたことがきちんと意味づけられたのがよかったです。提案された2人の先生の意欲的な取り組みが本当に素晴らしいと思えました。
- ・植田先生が各県の実践のすぐれた点をしっかりと折りこんでお話しただけだことに、勇気づけられた方が多いと思います。”
- ・「質の高い道徳科の授業づくり DVD教材」をぜひ視聴したいと思います。入手方法等教えていただけたらと思います。学校で上記のDVDを入手するにはどうしたらいいですか。
- ・参考になったこと実践に生かせることが多くありました。ありがとうございました。
- ・“ありがとうございました。実は少し考えさせられる部分もありました。自分自身がさらに勉強してみたいと思います。(資料も改めて熟読してみます。) 自立活動と道徳のかかわりです。
- ・実際の取組が具体的に紹介されいろいろと参考になりました。これをそのまま使うことは難しいので、自分の学級・学校で子どもの実態に合わせて工夫しながら使えるものは使わせていただきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・初めての参加でしたが大変参考になりました。色々と資料についてお聞きしたいこともありまだまだ時間があればと思えました。ありがとうございました。
- ・通常学級でのUD、支援学級での道徳について実践発表をおきかせいただくことができ、とても勉強になりました。通常学級での授業改善や、特別支援学級での授業の工夫、理解がすすみました。
- ・特別支援学級の道徳、自立活動と道徳の整理。道徳を交流学級で学ぶことへのメリットデメリット。知的なおくれのある子の内容項目のとりあつかい。このあたりをもっと聞いてみたいと思えました。
- ・素晴らしい学びの機会を提供いただきありがとうございました。
- ・特別支援に視点をあてた道徳研修は初めてだったので、先生方の取組は本当に参考になりました。

道徳ラボ研修会Ⅰ実施要項

テーマ 「校内研修の充実について考える」

令和元年6月15日 場所：香川大学教育学部

13:30～14:30 小学校における校内研修の充実と実際の取組

提案 吉原 聖人（高松市立香西小学校教諭）

山本 健太（附属坂出小学校教諭）

14:45～15:45 中学校における校内研修の充実と取組の紹介

提案 植田和也（香川大学教職大学院教授）

齋藤嘉則（香川大学教職大学院教授）

15:55～16:25 まとめ・助言

坂井親治（西条市立小松幼稚園長）

西尾洋之（前南国市立北陵中学校長）

16:30～16:55 各県の道徳教育に係る情報交換

道徳ラボ研修会Ⅱ実施要項

テーマ 「校内研修の充実について考える」

令和元年9月14日 場所：香川県教育センター

13:30～14:10 校内研修を生かして道徳科の授業改善 植田 和也（香川大学教職大学院）

14:15～16:30 講演「授業と研修の改善」 横山 利弘（元 関西学院大学教授）

道徳ラボ研修会Ⅲ実施要項

テーマ「校内研修に生かす特別支援教育の視点、特別支援学級での道徳科の授業」

13：10～13：50 基調提案：「道徳科に係る特別支援教育の基本的な確認」

香川大学教職大学院 教授 山本木ノ実

13：50～ 校内研修で活用できる教具、アプリの紹介

14：10～15：00 実践報告

報告1「特別支援学級における道徳科の授業づくり～中学校での取組～」

愛媛県鬼北町立広見中学校 教諭 小島 克明

報告2「道徳科における支援の必要な子どもへの配慮と指導」

岡山県玉野市立荘内小学校 指導教諭 原 洋子

15：10～16：00 実践報告を受けてのディスカッション

進行 香川大学教職大学院 教授 植田 和也

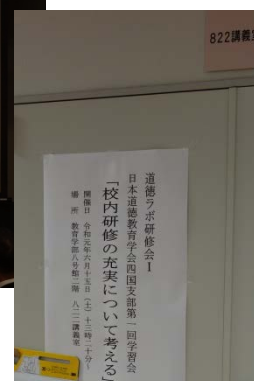
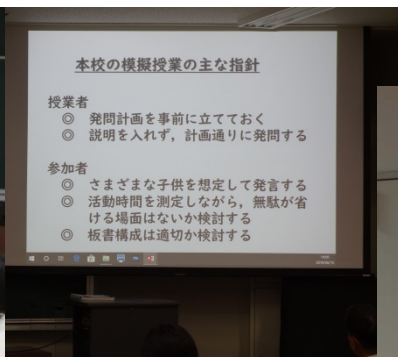
コメンテーター・講話 高松大学 教授 七條 正典

16：10～16：55 講話「道徳科の授業づくりで大切にしたいこと」

香川大学教職大学院 教授 植田 和也

道徳ラボⅠ 2019年6月15日の様子

香川大学 821 教室にて



【提案：小学校での校内研修】



【実践報告：校内研修の実際】

【パネル展示や校内研修で活用できる教具の紹介】



【まとめ・助言】



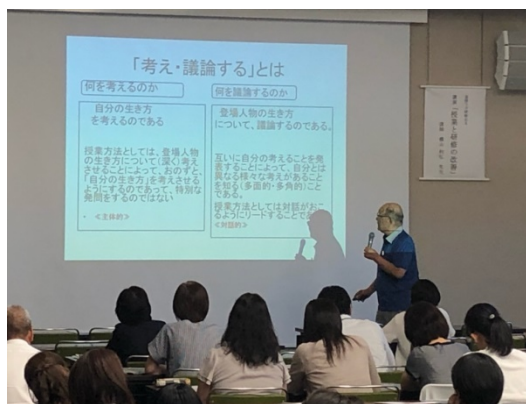
【熱心に聴き入る参加者】

道徳ラボⅡ 2019年9月21日の様子

香川県教育センター 大会議室にて



【講演：研修と授業改善】



【学習指導要領での基本的事項の解説】



【具体的な教材での演習を取り入れて】



【講師の横山先生による講演風景】

道徳ラボⅢ 2019年12月21日の様子



香川大学研究交流棟 5階にて



【講話：道徳科における特別支援教育視点からの支援

香川大学 山本先生】

【専攻長による挨拶】

【特別支援学級での道徳科の授業

実践報告をいただいた両先生

左 愛媛：小島先生 右 岡山：原先生】





【講師：高松大学 七條正典先生によるまとめの講話】

4 作成教材等

県内の各教育委員会、学校、教育機関や全国の教職大学院、ラボ参加者の希望者等に配布した。

令和元年度英語ラボ・道徳ラボによる研修教材の送付について

独立行政法人教職支援機構による教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業として令和元年度に採択されました本研究科高度教職実践専攻（教職大学院）、香川県教育センター共同事業「教科化対応ラボによる教員の資質向上～英語ラボ・道徳ラボ研修会を通して指導と評価の一体化～」につきましては、1年間を通して研修会等を開催し、学校教育関係者をはじめとして参加者の皆様に好評をいただいたところです。

その成果を研修教材「質の高い道徳科の授業づくりDVD教材」として、外部講師の皆様にも多大なるご協力をいただき作成することができました。

つきましては、今年度の下記研修教材を同封しております。校内研修や個人研修等にお役立ていただくと幸いです。

- 小学校英語評価資料集「指導と評価の一体化に向けて」
- 道徳研修教材「道徳ラボー校内研修の充実ー 30分で挑戦！演習用シート教材集」



◎「小学校英語評価資料集」作成の趣旨： 新学習指導要領全面実施に際して、各学校で行う小学校外国語科の学習評価の参考資料を提供し、教科化された小学校外国語科の指導と評価の充実に資する。

- ・ 利用対象者 小学校外国語科を指導している担当教員及び教材配付地域の小学校の教員を想定

*英語ラボの成果は小冊子「小学校英語評価資料集」にも可能な限り、反映させてまとめてきた。

◎ 道徳研修教材作成の趣旨： 特別の教科 道徳の校内研修活性化に活用できる資料やシートをまとめることで、各校の校内研修の充実をサポートしたい。30分でもできそうな内容を意識してまとめてきた。

- ・ 利用対象者 学校関係者、教育機関関係者等。特に道徳教育推進教師や担当者

<p>「令和元年度教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業」</p> <p>独立行政法人 教職員支援機構委嘱事業</p> <p>教科化対応ラボによる教員の資質向上</p> <p>～英語ラボ・道徳ラボ研修会を通して指導と評価の一体化～</p> <p>小学校英語評価資料集</p> <p>「指導と評価の一体化に向けて」</p>  <p>香川大学教職大学院 香川県教育センター</p> <p>令和2年3月</p>	<p>目次</p> <p>巻頭言</p> <p>「指導と評価の一体化に向けて」理論編</p> <p>「指導と評価の一体化に向けて」実践編</p> <p>「英語ラボ」講演会資料</p> <p>あとがき</p> <p>50 頁の小冊子</p>
<p>「令和元年度教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業」</p> <p>独立行政法人 教職員支援機構委嘱事業</p> <p>教科化対応ラボによる教員の資質向上</p> <p>～英語ラボ・道徳ラボ研修会を通して指導と評価の一体化～</p> <p>道徳ラボー校内研修の充実ー</p> <p>演習用シート教材集</p>  <p>香川大学教職大学院 香川県教育センター</p> <p>令和2年3月</p>	<p>目次</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 道徳科の授業での課題を互いに確認 2 教材を読みこみ中心発問と児童生徒の反応の予想 3 実践書きこみ用 中心発問と児童生徒の反応の予想 4 若年研修用 中心発問と児童生徒の反応の予想 5 授業後の協議用 発問について ふり返ろう 6 板書を想定して授業構想 7 板書写真から授業について ふり返ろう 8 実践書き込み用 板書写真から授業について ふり返ろう 9 道徳科の評価文作成の前に①：できることの3段階 10 道徳科の評価文作成の前に② <ul style="list-style-type: none"> 道徳 校内研修用資料（評価のポイント）小学校 道徳 校内研修用資料（評価のポイント）中学校 11 授業後の意識の継続を図る背面掲示の作成 12 道徳科の多様な導入 13 若年教員の研修 ～中心発問について～ 14 道徳科の授業における発問 15 道徳ノートやワークシートを活用した見取り 16 中心発問から板書構想 17 多面的・多角的に考えるための活動や思考ツールの有効な活用 18 道徳科の計画から実践への見える化づくり 19 道徳科の年間指導計画の見直しと実践計画 20 地域教材と教科書教材の検討 <ul style="list-style-type: none"> 校内研修や個人研修教材として作成してきたこれまでの道徳ラボ研修教材 <p>25 頁のシート教材集</p>

3 連携による研修についての考察

（連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等）

連携を推進・維持するための要点は、英語ラボ・道徳ラボ共通に、担当者同士の目的の共有と参加者のニーズ把握と内容のマッチングである。さらに、研修会での内容が校内研修等に繋がり、生かされるように意図した成果物の作成が大きな利点でもある。英語ラボでは、小学校英語評価資料集としてまとめ、参加者の協力を得てラボでの研修が生かされている点を分析して、評価資料集にも紹介できた。道徳ラボでは、校内研修に活用できる30分研修の演習用ワークシートを6月のアンケート結果をもとにニーズに合わせて、多様な内容でまとめて県内各校や全国の教職大学院等に配布した。

報告書作成にあたっては、目的を互いに共有し英語教育や道徳教育に関する内容の理解と情報交換を大切にしてきた。換言すれば、報告書作成においても、学校現場の状況を理解して活用できるものを作成しようとする互いの共通理解が重要である。何よりも教職大学院と県教育センターが協働して、英語や道徳の教科化に対する不安や悩みを捉えて、それに応える研修プログラムを実践しようとしてきた過程そのものである。その際に互いの担当の人と人が目的を共有することが基盤となった。

今後の課題としては、次年度以降は本事区分Bに応募しなくても、教職大学院と県教育センターが連携しながら、継続できる英語ラボ・道徳ラボを如何に実施できるかである。

【本年度の道徳ラボの研修会では、過去に作成してきた研修教材を紹介するとともに校内研修や個人研修での活用を再度、呼びかけた。また、活用状況等についても参加者にアンケートで確認した。】

『今までの校内研修、個人研修で活用できる教材作成と配布』



平成 28 年度



平成 29 年度



平成 30 年度

【平成 30 年度作成の DVD 教材の内容】

四国道徳ラボ 道徳研修DVD教材

質の高い道徳科の授業づくりをめざして

1.挨拶・説明

- 香川大学教職大学院 教授 有馬道久、教授 植田和也

2.道徳科の授業における課題

- 香川県教育センター
主任指導主事 浅野正敏、指導主事 芳我清加
[聞き手] 香川大学教職大学院 教授 齋藤嘉則

3.授業づくりI 基礎編

- 香川大学教職大学院 教授 植田和也

4.教材分析のポイント

- 香川大学教職大学院 教授 齋藤嘉則

11.インタビュー編

「質の高い授業づくりのために大切にしてほしいこと」

- 京都産業大学 教授 柴原弘志
高知学園短期大学 教授 田邊重任
[聞き手] 香川大学教職大学院 教授 植田和也
- 高知大学教職大学院 准教授 森 有希
福岡県新宮町立新宮北小学校 主幹教諭 木下美紀
[聞き手] 香川大学教職大学院 教授 植田和也

12.子どもが主体的に学ぶ道徳科の授業づくりをめざして

- 高松大学 教授 七條正典

研修での配布資料（一部抜粋）

道徳教育に関する校内研修の多様な工夫

2019.6.15

植田 和也

1 今後の道徳教育に関する校内研修の在り方・先生方の声

- ？道徳科になり、授業をどのようにしたらいいのかわからない。
- ？道徳科になり、何をどのように変えればいいのか教えてほしい。
- ？評価は、どのようにすればよいか分らない。共通理解を校内研修でどのようにすれば？
- ？カリキュラム・マネジメントと言われるが、道徳教育推進教師として何をすればよいか。

(1) 校内研修における道徳教育の位置づけ、確保

- ・道徳教育推進教師、研究主任、教務主任（主幹教諭）、管理職 間の連携
目的の共有と役割の分担

- ・道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の整備・・・総則編
道徳教育推進教師の役割

全教師の参画，分担，協力の下に，その充実が図られるよう働きかけていくこと
機能的な協力体制・・・各校で体制が機能しているかどうか？

- ・道徳教育の指導計画の作成に関すること
- ・全教育活動における道徳教育の推進，充実に関すること
- ・道徳科の充実と指導体制に関すること
- ・道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- ・道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- ・道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- ・道徳教育の研修の充実に関すること
- ・道徳教育における評価に関すること など

(2) 課題として指摘されたことに

- 量的確保・・・年間指導計画、環境づくり、道徳ノートの活用、情報発信
- 質的充実・・・目標の理解、研究授業等による授業改善への意識改革
- 教師間格差・・・学年団研修や打ち合わせ、ローテーション道徳等
解説を読んでいない先生は？ 解説を持っていない先生は？
そのような先生も含めて、一歩ずつ ・・・一人の十歩より、十人の一歩

(3) 研修内容について

- 解説等の理解研修・・・限られた時間で何を理解するのかを絞る
- 授業研究を主とした研修・・・事前、事後の多様な持ち方、主体的に参加できる工夫
- 環境づくりや作業を行う研修・・・継続的に変化し、更新できるシステム化
- 校外での研修報告による理解研修・・・短時間でポイントを、研修資料等の活用
- 校種を越えて互いの理解を深める研修・・・校区合同や小中合同での道徳研修

(4) 多様な工夫：学年団等での短時間でもできる道徳教育研修

学校内の連携や学年団での共通理解とチームワークが必要

中学校では各教科の枠を超えて道徳教育の内容を理解できるチャンスと捉えて欲しい

- 時間の工夫・・・30分研修：中心発問や板書等、絞り込むことと途中でもやめる

○資料配布の工夫

- ・全体での資料配布（ポイントを整理した資料作成）
- ・職員用掲示コーナーの設置
- ・図書コーナーや環境面での見えるかの工夫
- ・校内通信による配布
- ・学年団ごとの回覧ファイルによる周知

○集まる部分と任せる部分

- ・全体で ⇒ 学年団 ⇒ 個人で
- ・事前の資料読み ⇒ (学年団会) ⇒ 全体で
- ・事前アンケート ⇒ (学年団会) ⇒ 全体で

① 大切にしたい日々の授業や教育活動とOJT・・・各教員の自立性と組織としての活性化

如何に週1hの道徳科の授業を自分自身が意識できるか

各々が自身のこれまでの道徳授業を振り返り、課題を考えて日々の授業で意識してみましよう。

☆学校で付箋紙等を書いてみて、なかま分けしてみることも。互いの課題を知ることにも。

めざす授業を考えると現在のご自身の授業における課題は何ですか？

その課題（改善点）を受けて、日々の授業でより意識していきたいことは？

そのために

○校内研修等での授業研究における多様な客観的な記録分析の活用

道徳科における授業者自身の主観的な評価や見方と客観的な見方。自分自身の主観的

な見方を磨くためにも、多様な客観的なデータや記録も参考に振り返る。

客観的な根拠 Evidence による 学習過程や指導方法における傾向の確認

録音や録画で授業を振り返ることは、今まで気付かなかった傾向や状況に応じた適切な対応の仕方などに気付くことにもなる。・・・生徒一人一人の学習状況を確認する手立てを用意しておき、それに基づく評価を行うこと・・・。

(解説 特別の教科 道徳 第5章より)

- ☆ 授業者の授業における動線図・・・児童生徒へのかかわり、個への対応、机間指導
- ☆ 逐語録を通して・・・発言内容や価値の捉え方、深まり等 色付けによる確認
- ☆ 映像を通して (タブレットの活用等)・・・教師のメタ認知、教師の無自覚的意図による行為分析
- ☆ 教師、児童の占有率 (例：S-T分析)・・・教師のしゃべりすぎ、理想と現実のズレへの気付き
- ☆ 児童のノート、表現物、アンケート等から、参観者の声をもとに

学校は組織として機能することが重要である。個々の教職員が、自らの立場や分掌で役割を果たしていること自体に違いがあっても、めざすところは校長が明示した道徳教育の基本方針の実現に向かっている。そして、その歩みの一つずつが、すべて子どもたちの道徳性の育成や成長・発達のためであることを肝に銘じておきたい。

4 個人研修の工夫と校内での紹介

- ・H28 かがわ道徳ラボ DVD 研修教材
- ・H29 道徳ラボQ&A
- ・H30 道徳ラボDVD教材「質の高い授業づくりをめざして」
多様なオンライン研修：文科省道徳教育アーカイブ
教職員支援機構動画サイト
各県教育センターのHP、道徳教育、情報モラル

☆ 道徳ノートの工夫

資料1 「道徳教育に求められるリーダーシップ」七條・植田編 (美巧者社 2016) より抜粋

1 ボトムアップを生かし全教職員での取組

・・・如何に校内において教職員の自主性や自律性を引き出す過程を生み出すかである。下記に取り組んだ経験をもとにボトムアップのアイデアや提案を具体的に生かす流れを記載する。

- 1 教育目標の重点や道徳教育の基本方針である内容等を確認し、道徳教育推進の観点において、運営委員会、職員会等で共通理解を十分に図る。
- 2 道徳教育推進教師を中心に、全体に声をかけて、各分掌や学年団等のチームでその内容に関して、できそうなこと、やってみようと思う具体的なアイデアや情報をできるだけ多くイメージして集める。(自由に付箋紙でアイデアを貼り付けられる画用紙や模造紙を活用)
- 3 プロジェクトチームや関連する担当・主任等を核に数名で協議し、時期、内容、優先順位、誰が中心に実施するのかを簡単な一覧表に整理し協議する。
- 4 整理する際に、必要に応じて、道徳教育推進教師を中心に、教務主任、研究主任等で道徳教育の視点から意義や関連性、位置づけを再確認する。
- 5 全教職員、必要に応じて児童生徒にも周知し取組への共通理解を図る。
- 6 スモールステップでできることから取組み、実施したものは全体計画に朱書きで付加する。
- 7 実践を評価して、今後の改善や継続について確認する。

・・・できない理由や言い訳はいくらでも思いつくものである。

具体的な道徳教育の実践において、「できそうかも、試しにやってみようかと思える」アイデアや提案を聞き出

す場や機会を設けたい。できないことをマイナス方向に考えるのではなく、道徳教育推進のために自分の学校でできそうなこと、やってみたいこと、より改善したいことを自由に相談したり話題にしたりできる職場の雰囲気や関係資料を教職員全体で共有できるような配布・周知方法や環境づくり（保管・掲示）を工夫することも校内研修、道徳の授業を行いやすくするマネジメント・・・。

② 道徳教育に関する情報と状況の共有、環境整備に取り組む時間確保

多様な情報や関係資料を教職員全体で共有できるような配布・周知方法や環境づくり（保管・掲示）を工夫することも校内研修、道徳の授業を行いやすくするマネジメント・・・。

- ・国、県、市町教委等からの情報をもとに教科化までの経緯や意義等の理解
- ・道徳教育に関する情報共有スペースの設置
- ・短時間で情報伝達できる工夫や短期間で回覧する複線方式
- ・年間計画の実践状況の確認や授業後の板書を撮影しデータ保管
- ・多様な教科書会社発行の副読本や郷土資料等の整備
- ・「私たちの道徳」や「心のノート」を小中揃えて閲覧できるコーナー設置
- ・過去の文部省や文部科学省から発刊の道徳に関する指導資料等の整備
- ・授業で使用した教材や資料、大型紙芝居、人物等のVTR、地域に関する資料整備（郷土愛や伝統文化等）・・・
- ・道徳の資料整理棚や道徳教育掲示コーナーの充実
- ・道徳教育に係る各専門家や地域の方の人材バンクづくり

研修プログラム開発・実施を振り返り

今年度は「観点別評価」を焦点として2回英語ラボ研修会を実施したが、主な受講生である小学校の先生方にとって英語科における評価規準を観点別に文章化して記載するのが初めてになるため、その練習の機会となっただけでなく、中学校の先生方にとっても自らの記載を見直す機会になったようである。来年度以降は小学校英語の本格実施に伴い、実際の活評価規準活用や新しい教科書を用いた授業実践にも焦点を当てていきたい。

中住幸治

教職大学院と県教育センターの共催により、3回予定通り開催できた。校内研修をテーマにしているので、学校現場の状況を県教育センター主任指導主事と各担当大学教員が内容の構築から運営に至るまで連携を図りながら検討してきた。各々のよさや強みを生かして、参加者のニーズに合った内容を提供するとともに研修の場を提供することができた。このような研修を形成していく過程を通じて、継続してきた実績をより深化させる互いの理解や共通認識を深めることができた。

植田和也

その他

4 その他

[キーワード] 小学校英語における指導と評価、道徳科の校内研修、英語研修教材、道徳研修教材、英語ラボ、道徳ラボ

[人数規模] D (補足事項 研修会は土曜日の午後開催、)

[研修日数(回数)] C (補足事項 英語ラボ2日、道徳ラボ3日、)

【補足事項】教材等に関する問い合わせ先：香川大学教職大学院 教授 植田和也

【担当者連絡先】

●実施者 ※申請する大学名又は教育委員会名を記載すること

実施者名	国立大学法人 香川大学 大学院教育学研究科高度教職実践専攻	
所在地	〒760-8522 香川県高松市幸町1-1	
事務担当者	所属・職名	教育学部 学務係
	氏名（ふりがな）	入江一之（いりえ かずゆき）
	事務連絡等送付先	〒760-8522 香川県高松市幸町1-1
	TEL/FAX	087-832-1404
	E-mail	ljimsen@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

●連携機関 ※共同で実施する機関名を記載すること

連携機関名	香川県教育センター	
所在地	〒761-8031 香川県高松市郷東町587-1	
事務担当者	所属・職名	教職員研修課 主任指導主事 指導主事 指導主事
	氏名（ふりがな）	浅野正敏 芳我清加 清水由美
	事務連絡等送付先	〒761-8031 香川県高松市郷東町587-1
	TEL/FAX	087-813-0955
	E-mail	kyoikucenter@pref.kagawa.lg.jp

令和元年度 英語ラボ・道徳ラボ運営組織体制

香川大学教職大学院・教育学部

教授	野崎 武史
教授	武藏 博文
教授	植田 和也
教授	齋藤 嘉則 (9月末まで)
准教授	中住 幸治
教授	山本木ノ実
准教授	金綱 知征
准教授	大熊 裕樹
特命教授	津山 勝義
教育学部事務課長補佐	中島 直子
教育学部学務係専門職員	入江 一之
教育学部学務係主任	松井 梨奈

香川県教育センター

所長	真鍋 佳樹
教職員研修課長	齋藤 浩
主任指導主事	浅野 正敏
指導主事	芳我 清加
指導主事	清水 由美

「令和元年度教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業」
独立行政法人教職員支援機構委嘱事業

実施報告書

「教科化対応ラボによる教員の資質向上
～ 英語ラボ、道徳ラボ研修会を通して指導と評価の一体化 ～」

香川大学教職大学院 香川県教育センター
令和2年3月

国立大学法人 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）
〒760-8522 香川県高松市幸町1-1

編集事務局：植田和也研究室 TEL 087-832-1509（FAX兼）